

第18回 統計品質改善会議 議事概要

- 日 時：令和7年8月29日（金）13:30～14:30
- 場 所：中央合同庁舎2号館 14階 情報政策本部会議室AB
- 議事概要：以下のとおり

【資料の説明】

以下の各議事に関する資料を事務局が説明

議事1「国土交通省統計改革プラン」の実施状況の報告

議事2「国土交通省統計改革プラン」の改定素案

構成員からの主なご発言は以下のとおり。

<議事1：「国土交通省統計改革プラン」の実施状況の報告>

- しっかりとしたフォローアップを行っており、他省への刺激にもなると思う。
- 今回の資料をみると改革プランを着実に実行していることが分かる。また、不適切処理事案の反省を風化させない姿勢を保ってほしい。
- 統計の専門性を持っている職員が評価される方途を考える必要がある。統計作成部署だけではなく、他部署であっても統計の知見が役立つことを評価してほしい。中国や台湾と同様に、統計の専門性を持つ職員の処遇を見直すこともあり得る。
- 統計作成部署が統計を利活用するスキルに乏しいように思う。統計部門が軽視されるのは、これがその理由の一つではないか。統計の利活用方法を理解して作成するのと分らずに作成するのでは、誤りに対する関心も異なるし、利活用の一環としての分析能力の有無は将来的なキャリアパスにも影響する。
- 統計DXの推進や統計調査の一部見直しによる調査の簡素化、行政記録情報の活用による調査項目の置き換え等を通じて、余裕が出た分のリソースを統計の利活用に振り向けることが重要である。
- 統計の利活用に一層取り組むこと、例えば、統計の分析結果を施策へ活用することができれば、マスメディア、アナリスト、エコノミストの方々が評価するようになるほか、省内でも統計部局と政策部局との接点が増え、相応の評価を得ることに繋がる。
- 経済新聞が掲載している「データでみる」シリーズ等において、国土交通関係の統計による分析データ等を記者に説明すれば、それが採り上げられ、国土交通省の統計がさらに知られるようになると思う。メディア等との接点も広く考えてはどうか。
- 企業は統計人材を良い条件で雇用するようになってきているため、霞ヶ関も追随しなければ優秀な人材が企業に流出することになる。

- 役所の中にも統計の専門性の高い人がおり、そのような方々は大学等に流出する場合があるが、再度役所に戻ってくることができるような受け入れ体制を考えていただきたい。
- オンライン回答率の向上に向けた取組に感謝する。オンライン回答率が上がってきた次の段階では、母集団として捉えたいこととオンラインによる回答の間に変化がないか、偏りがないかなどもしっかりと評価していくと良いと思う。
- 世帯のPCの普及率が15年前頃は8割程度であったが、スマホの普及により最近は7割くらいまで下がっているので、世帯調査のオンライン回答率を高めるためには、世帯調査については国勢調査のように、統計調査をスマホでも回答できるように改善した方が良くかもしれない。
- 省内では、統計の品質改善が必要だと思っているが、多忙のために対応できない部局もあると思う。そのような方々に統計品質改善会議を活用していただき、統計の改善に役立ててほしい。

<議事2：「国土交通省統計改革プラン」の改定素案>

- 統計品質改善会議の構成員から『「国土交通省統計改革プラン」の改定に向けた提言』が提出され、それも含めた意見交換が行われた。ただし、意見交換では省内調整中の内容を含むため、議事の内容は非公開とした。

以上